

平成14年度小学校 Joyful English Learning Practice Example

小学校名	美濃地区小学校	対象学年	3年	実施時期	6月
題材名	数				
主な表現 補助資料	How many? One. . . . 数字カード(提示用) 1~20、おはじき、“That's right”カード(各児童10枚)				
本時の 目標	数あてゲームを通して、1~20の言い方や、数の尋ね方・答え方に親しむことができる。				
学 習 活 動	教師の指導・援助	留 意 点			
<p>1. Greetings A: Hello. How are you? B: I'm good. “Hello Song”を歌う。</p> <p>2. Song Time “Ten Little Indians”を歌う。</p> <p>3. Skit Time ・教師の対話を聞いて、本時の学習課題を理解する。 【課題】かずをあてよう ・1~20の言い方の練習をする。 ・数の数え方や、ゲームで使う表現を繰り返し練習する。</p> <p>.Challenge Time ・数当てゲームを楽しむ。 (1)じゃんけんをする。 (2)勝った方からおはじきをつかんで数を尋ねる。 How many? (3)負けた方が数を予想して答える。 [number]. Yes or no? (4)数を数えながら確かめ、当たった“That's right”カードを受け取る。 A・B: One, two, three... Yes, [number]. Here you are. B: Thank you. (5)交代してゲームをする。 ・“ABCの歌”を歌いながら席に着く。</p> <p>5. Culture Time ・日本語と英語では数詞のとらえ方が異なることを知る。</p> <p>6. 振り返り Time ・学習の振り返りをする。 ・教師の評価を聞く。</p> <p>7. Greetings ・“The Bye Bye Song”を歌う。 Good-bye. See you.</p>	<p>J: 児童と一緒に振りをつけて歌いながら一人一人の表情を確かめる。 A: 児童と一緒に振りをつけて歌いながら正しい発音を聞かせる。</p> <p>J/A: 本時の対話を提示する。 J: How many? A: Five. Yes or no? J・A: One, two, three... J: Yes, five. (No, six.) Here you are. (“That's right”カードを渡す) A: Thank you. J: 1~10の言い方を確かめる。 A: 11~20の言い方を教える。 J: 一人一人が対話に取り組む機会を確保する。また、一人一人の対話の様子を把握する。 A: 言い方が分からない児童に表現を教えたり、正しい発音を聞かせたりする。また、数が当たったときの喜びの表現や外れたときのがっかりした表現を言葉や身振りで示す。 J/A: 役割を交代する際に、積極的に活動に取り組む姿や、自信をもって数字を数える姿を認め、後半の活動の充実につなげる。 A: 日本語では、一人、二人あるいは一本、二本と数えても、英語ではすべて“one”“two”であることを話す。 J: 前時から変容のあった児童や、はっきりと数を数えていた姿を認める。 A: 進んで英語で話しかけたり、身振りを加えて表現したりしていた児童を認める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常よく使っている挨拶や、よく歌っている歌を最初に歌うことで、和やかな雰囲気を作り出し、英語活動への意欲がもてるようにする。 ・歌や対話、ゲームにおいて、数を指で示すなどの身体表現を多く取り入れることにより、言葉の他に身振りを加えることで一層自分の意思が正確に伝わることを理解させる。 ・円形に席を作り互いの表情が見えるようにする。 ・隣同士のペアで、表現の確かめをする。 ・机を円形に並べ(児童数の半数)各机上におはじきを20個ずつ箱に入れておく。児童の半数が円の内側を動き、残り半数が外側を動くことにする。机をはさんで出会った児童同士でゲームをする。 ・ゲームへの取り組みを通してより多くの仲間とコミュニケーションしたり、言い方を教え合ったり、友達のよい表現をまねしたりすることを大切に ・英語活動の中で、できるだけ異文化に触れる場も設けたい。 ・全員でゲームを行うなどして本時の振り返りをする。 ・本時のねらいに迫る具体的な姿を認めることで、児童が自信をもち次への意欲がもてるようにする。 			

